

# おおまち 市議会だより

No.161

平成28年5月1日

発行／大町市議会  
編集／市議会だより編集委員会  
〒398-8601  
長野県大町市大町3887番地  
TEL.0261-22-1139  
市議会ホームページ  
<http://www.city.omachi.nagano.jp/>



## 大町岳陽高等学校 誕生

4月7日 大町高等学校・大町北高等学校の再編・統合により誕生した「長野県大町岳陽高等学校」が開校しました。2つの高校が長い歴史の中で築き上げてきた伝統を継承しつつ、新たな歴史を築き上げていっていただきたいと願います。

葉のイメージを、高山植物のミネウスユキソウを用いて「G」を描いた。山は北アルプス、三本の線は仁科三湖をイメージした。



### おもな内容

- 3月定例会
- 新年度予算…………… 2
- 北アルプス国際芸術祭関連討論…… 4
- 一般質問要旨…………… 6
- 審議結果・陳情審査結果…………… 14

# 平成28年大町市議会3月定例会

平成28年大町市議会3月定例会は、2月23日から3月15日までの会期22日間で開催されました。初日市長から提案された案件は、報告・事件・条例・予算、合計37件でした。その後3月2日に市条例の改正案件3件と、補正予算6件が追加されました。

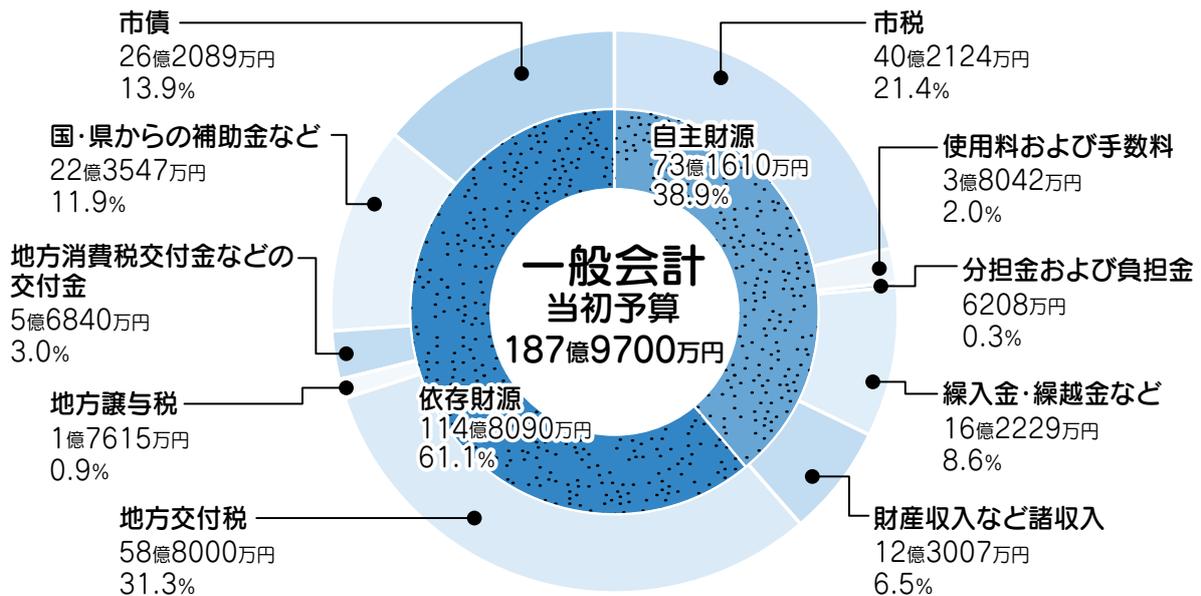
最終日には「芸術文化関連の予算を削る修正動議」が出されましたが、賛成少数で否決され、原案が可決されました。その後 議員提案による市議会の条例改正案件3件が提出され、可決されました。

## 新年度予算

予算総額は、187億9700万円。予算規模は過去最大。これは広域ごみ処理施設の建設などハード事業が集中したため、前年度より14億3000万円増えました。

## 歳入の概要

市税は4年ぶりに40億円台に回復しました。前年度比2.2%増の40億2124万円。これは個人市民税の増と、民間の太陽光発電施設等にかかる固定資産税の増によるものです。



## 各会計別予算規模

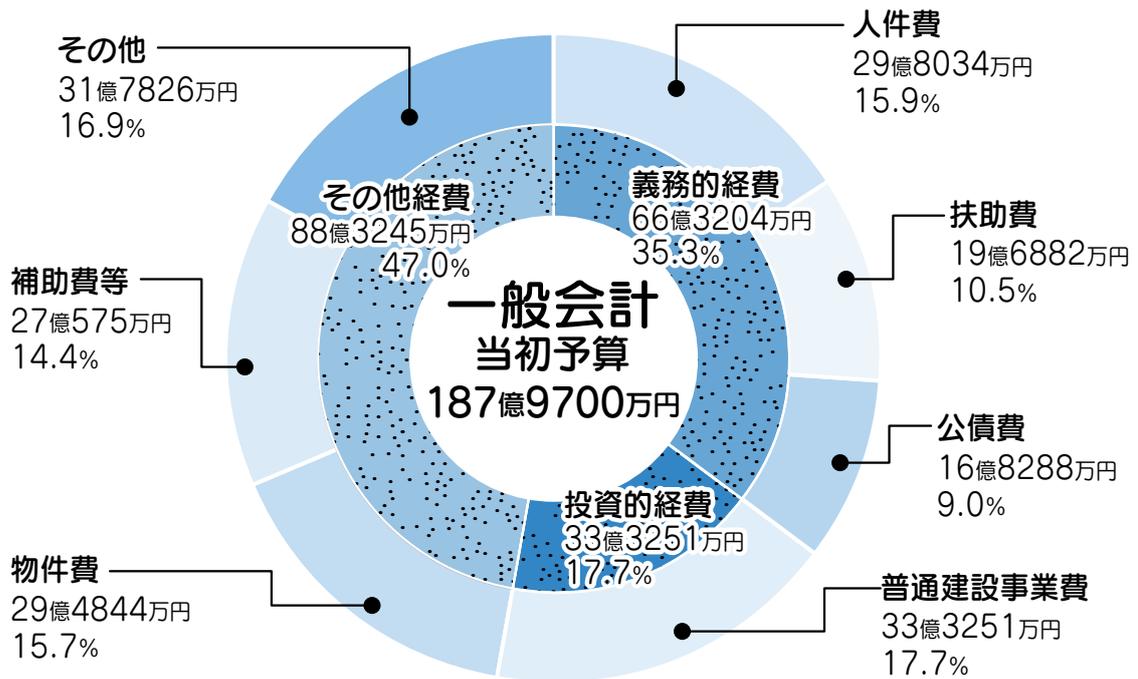
※温泉宿泊施設事業は28年度から一般会計に統合しました。  
※会計別に1万円以下の端数があるため、内訳と計は一致しません。

会計名		28年度	27年度	対前年度比(%)
一般会計		187億9,700万円	173億6700万円	+ 8.2%
特別会計	国民健康保険	41億5417万円	39億4330万円	+ 5.3%
	後期高齢者医療	3億4818万円	3億3763万円	+ 3.1%
	公営簡易水道事業	2億3860万円	2億5033万円	- 4.7%
	水道事業	7億8900万円	7億7840万円	+ 1.4%
	温泉引湯事業	1億 595万円	7891万円	+34.3%
	公共下水道事業	22億4576万円	20億2171万円	+11.1%
	農業集落排水事業	1億7228万円	1億7865万円	- 3.6%
	病院事業	60億2458万円	54億9735万円	+ 9.6%
特別・企業会計小計		140億7852万円	131億7596万円	+ 6.9%
総計		328億7552万円	305億4296万円	+ 7.6%

# 市の予算は あなたの生活に直結しています

## 歳出の概要

大型事業が目白押しで投資的経費の普通建設事業費が、前年比76.4%の大幅増33億3251万円となりました。



## おもな新規事業



# 信濃大町 食とアートの廻廊

(写真は越後妻有の現代アート作品です)

## 討論!!

3月定例会では12名の質問者全員が国際芸術祭について質問しました。またこの芸術祭に関する「新年度予算」と「補正予算」についてや「芸術祭の抜本的見直しを求める陳情」などで多くの議員から反対・賛成の討論がされました。議会だより編集委員会では、非常に注目される課題であることから、それぞれの討論を集約しました。併せて市長の見解も掲載します。



### 反対

●市長と北川氏の口頭による契約は市の財務規則に基づかない違法な契約であり無効である。

### 反対

●北川フラム氏に1億5000万円のアート製作費を、根拠もなく丸投げすることが最大の問題点である。

### 反対

●市長は「食とアートの廻廊実行委員会」発足前に、北川氏とディレクター費を3年で1900万円、アート製作で1億5000万円を口頭で契約している。議会で議決すべきことであり、正当な手続きがないのはおかしい。

### 反対

●総額2億円を超える事業なのに、企画概要や基本計画が決まっていない段階で予算計上するのはおかしい。子育て支援や高齢者対策の方が大事だ。

### 反対

●芸術祭の計画と予算の見直しが不透明。事業費の根拠は北川フラム氏に一任したことにより、主体がずれている。芸術祭を始める前に地域に何が必要か見極めるべきである。

## 芸術文化関連予算議決経過～抜粋～

### 食とアートの廻廊実行委員会負担金

- ★9月定例会(27年度補正予算) 800万円
- ★3月定例会(27年度補正予算) 6000万円
- ★3月定例会(28年度当初予算) 5000万円

### 大町市アーティスト・イン・レジデンス推進協議会負担金

- ★9月定例会(27年度補正予算) 1245万円
- ★3月定例会(27年度補正予算) 1800万円
- ★3月定例会(28年度当初予算) 1637万円



越後妻有「うぶすなの家」の昼食

# 北アルプス国際芸術祭

## 賛成

○国際芸術祭の開催の目的は、私たちの郷土の価値の再発見であり、美術館で味わうことのできない新たな価値の創造である。また、世界の一流の芸術家による本物の芸術祭でなければ観光客は来ない。



## 賛成

○あらためて市長の熱い決意と新年度からの推進体制の強化策などを聞く中で、地域が一体となって、ぜひともこの新たな試みを成功に導くことができるよう期待する。

## 賛成

○今をそのまま維持していくことは大町市の衰亡に繋がる。市長は大きな決断をした。1万人が減った時、自治会は維持できるのか。今こそ大きな決断が必要。どう協力し合ったら市民の幸福を維持できるのか考えるべき。



## 賛成

○市長は一刻も早く、何か手を打たなければという思いを表明した。よほどの決意である。事業経営と行政を一律に語ることはできないが、新しいことに挑戦していくことには共感する。



## 賛成

○国際芸術祭を通じて市民みんなでおもてなしをする体制づくりが必要。20年、30年後の元気な大町市を願って種をまくことである。ただし市民が理解できる説明と動ける組織づくりをすべきである。

## 市長はどう考えているのですか？

大町市は、他市に比べてもいつそつさらに厳しい人口減少が続いており、このまま手をこまねいていて良いのか、ということが、国際芸術祭の取組みの原点です。芸術文化、スポーツを通じて地域の元気を再生することは、私の信念でもあります。国際芸術祭を開催したとしても、直ちに地域経済が回復し人口が増加するものではありません。芸術の持つ人を引きつける強い力と情報発信力を活用して大町市の魅力を広く内外に伝え、観光客の増加により地域内の消費を拡大するための手段の一つであります。

市議会での真剣なご議論を経て予算を議決いただいたので、責任を持って執行してまいります。

市長 牛越 徹



ここが聞きたい ただしい

3月定例会では、12名の議員が個人質問を行いました。以下は、その要旨です。（この欄は、質問議員の原稿どおり掲載しています。正式な記録は会議録をご覧ください。一般質問の様子は市議会ホームページ「議会録画中継」をご覧ください。）

未来を担う

個人質問



大町総合病院の  
赤字予算を問う

政友クラブ 勝野 富男

**質問** 大町総合病院新年度予算の収支が4億5千万円の赤字計上予算となっているが、その意図と要因、今後の病院経営について問う。

**答弁** 常勤医師不足と分娩休止の影響などから、特に入院収益の増加が見込めないため、これまでの実績に基づき比較的实现可能と考えられる目標を設定し、収益額を計上したことが主な要因である。また、他の要因としては資本的収支における不足額の補てん財源が、数年続いた赤字決算によって不足してきているため、本来収益的収入で受けるべき一般会計繰入金2億7千万円を資本的収入の繰入に変更したこととから、その分も赤字額が膨らむこととなった。当初から赤字予算を組まざるを得ない状況にあることは大変残念と言わざるを得ない。病院経営が非常に厳しい状況であることを年度当初から全職員が認識し、より一層の業務の効率化や改善に最大限の努力をしていく。今後の経営改善については1月に開設した地域包括ケア病棟を有効に活用し、入院患者数の増加を図っていくとともに4月の診療報酬改定の内容を検討しながら、経営改善につながる有利な施設基準の取得に努めていく。

**質問** 大町市のこれからの農業をどう捉えているか。

**答弁** 米消費量の減少や価格低迷、担い手の高齢化、後継者不足等がある。これらは容易に解決できるものではないと認識している。喫緊の対策としては農地集約化の促進や経営の安定化、生産体制の強化等の取り組みをさらに進めていく必要がある。それには農地中間管理事業の活用や経営所得安定対策等国の補助事業を十分活用していく。また担い手確保育成についてはそれぞれの就農形態にあつた総合的な技術指導や経営指導を含めた相談を行う仮称「就農支援センター」の体制整備を新年度に計画しており、この組織を十分活用できるように取り組んでいく。



どうする公立病院経営



### 市民の理解が必要 国際芸術祭

民声クラブ 高橋 正

**質問** 国際芸術祭については、大方の市民の理解が得られていない。市民や議会への説明の前に、すでに北川氏との約束が出来上がっていた。総額2億円という大きな予算の事業にしては、あまりにも拙速である。市長は市民との協働を謳っているが、予算総額の約85%、1億6千900万円はすでに北川氏とその会社に支払われることになっている。協働とは単なるボランティア参加という意味か。

**回答** 人口減少がさらに進めば、大町市は危機的な状況に至ることが想定される。地域社会の衰退に歯止めをかけるため、開催を決定した。単にボランティアで参加するにとどまらず、ふるさと大町をより良いものにするため積極的に関わっていただくことが重要である。

**質問** 12月議会でも「作品の価格の明示はできない」との答弁だった。

価格が公表されて困るのは北川さん自身ではないのか。事業予算を決定するのに、その事業が必要とする素材や経費などについて、正しい積算がなければ

予算額の正当性はなくなる。どのように考えるか。  
**回答** 作品の製作費は公表されないのが一般的である。北川さんが困る

訳ではない。それぞれの積算根拠が正しくなければ、全体事業費も適切な額にはならない。必要経費を精査している。

**質問** 私はアートの話の以前から「牛越力ラーを出して、思い切つてやるべき」と言ってきた。だから反対はしない。しかし事業終了後には成果の検証が必要となる。国際芸術祭で交流人口は何人、経済波及効果はいくらと見込んでいるか。事業評価に時間がかかれば市長の責任の所在はあいまいになるのではないか。

**回答** 2万人の来場を想定。経済効果は今後推計する。政治生命をかける。

**質問** 猿害について、平地区において一日も早い電柵設置が必要である。  
**回答** 被害農家と密接な連携をして調整を図り、被害防止対策に努める。



現代アートは大町市を救えるか



### 芸術祭総合プロデューサー配置を

市民クラブ 中牧 盛登

**質問** 北アルプス国際芸術祭について、総合ディレクターの北川フラム氏と実行委員会の主な役割は何か。

**回答** 北川総合ディレクターは、芸術祭の食とアートについて監修する。実行委員会は、事業主体として全ての

内容について企画、審議、調整していく。全ての責任は実行委員会にある。

**質問** 今、実行委員会は何をしているのか。決定権は誰にあるのか等々、細かな情報発信が必要ではないか。

**回答** 実行委員会の開催数が少なく発信する情報がない。

**質問** 決定権のある人は誰か。  
**回答** 実行委員長である市長。

**質問** アーティストがどのような構想で作品を創るのか、アーティストの考え方を聞く機会はあるのか。

**回答** 基本的に、アーティストは、地域に入り地域の人々と十分話をしてから作品を創ることとしている。そのようなアーティストを採用する。

**質問** アーティストが決まるのはいつ頃になるか。  
**回答** 全員が決まるのは夏頃になる。

**質問** 信濃大町らしい伝統的な食とは何か。食部会長は誰か。  
**回答** 食部会長は決まっていない。

**質問** 食についても、これから検討する。アート作品は、5つのエリア

に均等に配置する考えか。  
**回答** まだ決まっていない。  
**質問** 来年6月4日の開催に間に合うかどうか不安を感じる。開催予定を1年間延期する考えはないか。

**回答** 何としても予定通りに開催する。来年の6月4日には、笑顔で多くのお客様を迎えたい。

**質問** 北アルプス国際芸術祭の予算調達や管理、スタッフ人事、企画、営業、売り込み等、国際芸術祭全体を監修する「総合プロデューサー」の配置が必要ではないか。

**回答** 行政が主体となつて取り組む事業である。4月から新たな課を新設し、総合プロデューサーを担う人材の職員を配置する。



国際芸術祭の舞台 信濃大町



### 国際芸術祭の事業内容 経費を明らかにすべき

日本共産党 平林 英市

どのように受け止めているか。

**答弁** 今、国際芸術祭をやらなければ大町の将来に繋がらない。他の

**質問** 3月議会に、来年6月に開催される芸術祭の予算が計上されているが、市民の熟知度や評価をどう受け止めているか。

**答弁** 企画概要案や基本計画が策定中で具体的な説明ができないため、未確定で事実と異なった情報をもとに、疑問を抱いている市民がいることは十分承知している。

**質問** 総合ディレクターの北川フラム氏に1億5千万円の委託費を支払うとしているが、根拠は何か。経費の詳細を議会に報告し、市民にも明らかにするべきだ。

**答弁** 製作費は著作権、人格権等により保護されており、公表できないものと考えている。

**質問** 北川氏やアーティストは地域外の人だ。大町の文化・歴史・民俗芸能に密着した作品ができるのか。どのようにして市民の協力が得られるのか。

**答弁** 作家に地域の魅力を理解していただくとともに、私たちもそれまで気付かなかった魅力を改めて認識することで郷土に誇りと自信を持てるよう取り組んでいく。

**質問** 税金の使い方に疑問を持つ市民が多く「民間主導で市が補助金を出せばよい」「高齢者福祉や子育て支援に予算を回すべきだ」との声を聞く。市は



大町の自然に現代アートが合うか

予算を削っているわけではない。基金を積み立て他の事業に影響がないように実施していく。

**質問** 基金も一般財源と同じだ。芸術祭全体も随意契約でやるのか。

**答弁** 効率的で有利な随意契約でいく。

**質問** 実行委員会に2億円が支出されるが、実行委員長は市長であり、自分のさじ加減で予算を組み、自分のやることとしていることに血税を使うということではないか。

**答弁** 議会に予算を計上し、承認を得て執行するもので、独断ではない。



### 国際芸術祭は 見なおしを

虹と緑の会 大和 幸久

者及びその支配人」にならないとする「兼職禁止規定」に抵触する。また、民法108条の双方代理条項に抵触し、利益相反

大町市アーティスト・イン・レジデンス協議会(以下協議会)と信濃大町食とアートの廻廊(以下実行委員会)の問題点

**質問** 昨年10月1日設立された「協議会」の会員は、選考基準もないまま、市長が協力する者を都合よく選抜して構成された、中立・公正性に欠けた団体だ。1カ月後の11月8日に開かれた「実行委員会臨時総会」の会員名簿は「協議会」の名簿とほぼ同じであった。また、この総会は、会員以外の者も多数参加する中、20分で終了、議案の賛否確認や、総会の成立も疑わしい。

この一民間団体にすぎない「実行委員会」が市の文化芸術の方針を勝手に決めたり、市民の代表として振舞い続ける事は許されない。実行委員会等は法律上どのような団体という認識か。

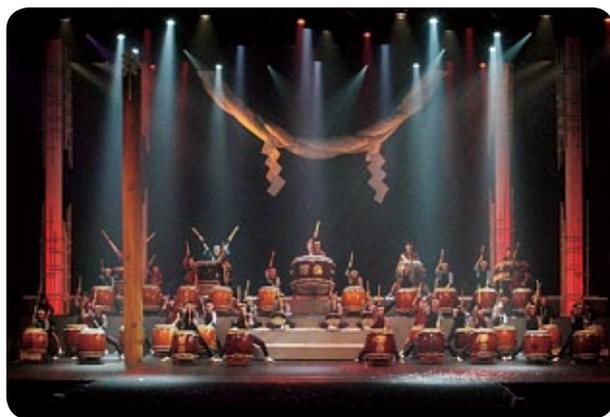
**答弁** 任意の団体である。

**質問** 「人格なき社団」は民間団体で税法上は法人となる。市県民税や固定資産税の負担、著作権や事故などに絡む損害賠償責任、維持管理費負担など加入会員には債務の弁済義務が生じる。リスクに関し注意喚起をしたか。

**答弁** リスクは説明していない。

**質問** 自治法の「兼職禁止規定」及び民法の「双方代理規定」に抵触

**質問** 大町市長と実行委員長の関係は「市長は、大町市に対し請負をする



地元の文化芸術振興こそ望まれる

関係となる。いずれも違法行為だ。北川フラム氏も、実行委員会の役員と、契約先のAFG会長との間で利益相反関係となり違法なので業務停止を。

**答弁** 資料がないので保留する。

**質問** 国際芸術祭は地方創生につながらず新潟県十日町の人口はこの間14.4%も減少している。大町市の経済波及効果では、来客数2万人に一人5千円の消費係数を乗すると1億円で、フラム氏に1億5千万円支払えば、5千万円の「赤字」だ。事業中止を。

**答弁** 入場料収入が総てではない。



### 食とアートの廻廊について

堀 堅一

でも見やすくなるはずだ。2年、3年をかけても芸術文化振興の拠点となる小ホールの実現に向けて検討をお願いしたい。

**質問** ふるさと納税の市長お任せ分の4千万円を国際芸術祭に使うとしているが、一人1万円として4千人からの納税となる。全国の津々浦々から納税というアクションを起こしてくれた皆様に、芸術祭の一日限り有効の特別招待券を配るぐらいの事はできないのか。貴重な納税をしてくれた皆様は、また多くの人を連れてきていただければこんなに嬉しいことはないかどうか。  
**答弁** 提案いただいた寄付者への特別招待券、入場券、パスポートを返礼の品として配布することについては観客の増加を図る有効な手段の一つであることから、入場料計画との兼ね合いにも配慮しながら積極的に検討する。

**質問** サンアルプスの大会議室は200人収容の多目的に使用できる施設であり、会議のほか芸術文化活動の発表の場としても活用されている。音響や照明設備などはホールとしては不十分だが小規模の発表会などで役割を果たしている。しかし、小ホールの必要性については、時おり耳にしている中で、市民の皆様の文化芸術活動の状況を見極めていきたいと思うが、今後市の公共施設全般の在り方なども総合的に勘案して検討していきたい。

**質問** 芸術祭の反対意見の多くは、そんなお金があるのなら、ほかに使いたい道があるだろうとよく言われる。他にすべきことが何かをお聞きするとほとんどの皆様から具体策が出てこない中でお一人だけ、「文化芸術を謳うのなら小ホールを作ってほしい」という具体的な提案を頂いた。なるほどこれは素晴らしいご提言を頂いた。小ホールのホールは市民にとっても、文化芸術を推進していくためにも必要なものだと思うがいかがか。とりあえずは既存の建物改修でも良い。例えば、サンアルプスの床に段差をつけるだけ



大人気 大町の食



### 市は国際芸術祭に役割を果たせ

市民クラブ 大塚 富義

月を待たずにできるところから進めていく。  
**質問** 昨年9月に国際芸術祭をやるといつてから、市の広報では記事が

**質問** 市が計画している北アルプス国際芸術祭は、市民の中に、無関心の人が、反対の人が、賛成の人と様々であり、目的と手段が混同している。今後の具体的な内容や説明責任をどう果たしていくのか。

**答弁** 芸術文化を通じて観光誘客の拡大を語り、市の地域経済を再生するための一つの手段と考えている。具体的には、間もなく策定される基本計画により市民に説明していく。食の分野においては、市内の飲食店や宿泊施設など関係する皆様と連携することが必要不可欠であり要請していく。

**質問** 芸術の分野は北川フラム氏に任せて、行政は市の将来に向けたまちづくり策等の実行が仕事ではないか。そのために何をやるか、いつやるか、どうするかではないのか。

**答弁** 国際芸術祭については、新たに組織体制を組み、万全の体制で取り組む。

**質問** 日程がまったく遅れている。前倒しはできないのか。

**答弁** 前倒しはできないが、実行委員会の4つの専門部会は、4



この子らに元気な地域を残そう

ほとんど無い。行政全体として戦略的に進める必要があると思うが考え方は、  
**答弁** 今後の市の広報については、特集号を組むなど進捗状況等を知らせる。また、市民が納得行くように取り組みを進める。  
**質問** サポーターの募集は、早くスタートしてその中で議論することが内容の充実や、協力体制の輪を広げると思うが、どう考えているか。  
**答弁** 議員の言うとおりであり、早急に公募体制を組んでいく。国際芸術祭だけでなく、すべての分野で目の色を変えて取り組むことが、人口減少を少しでも止められると思っている。また、行政に携わる者が危機意識をもつことが原点であり、市民の皆さんと共有していくことが大事と考えている。



**障害者差別解消法が  
この4月に施行**  
公明党 太田 昭司

**障がい者福祉について**

**質問** 市内では高齢者に対する入浴サービスは行われているが、地域包括ケアの充実のためにも、高齢者に限らず障がいをお持ちのお子さんも入浴サービスを受けられるよう取り組みをすべきと思うがどうか。

**回答** 市社会福祉協議会に対し、総合福祉センター内の高齢者デイサービス「すもす」に配置されている特殊浴槽を利用して地域活動支援事業としてサービスを提供できないかについて打診した。その結果、障がい児の受け入れは可能との回答をいただいた。

**質問** 毎年、小学校入学のお祝いに「おたんじよ桜の木を植えているが、市内から安曇養護学校に入学される1年生は「おたんじよ桜植樹会」に参加していない。今後は市内から安曇養護学校に入学される1年生も記念の植樹会に参加できるようにできないか。

**回答** 平成25年度に安曇養護学校大町地区PTAに皆様からご要望をいただき、毎年、植樹会実行委員会より同PTAの皆様に対し、植樹会への参加についてご確認をしている（昨年度と本年度は対象者なし）。今後も養護学校への入学対象の児童生徒の保護者の皆様と相談しながら、ご希望に沿うよう対応していききたい。

**国際芸術祭の開催について**

**質問** 神山町の事例を参考に、国際芸術祭の開催を今から全国、全世界

に発信すべきだ。また同時に、市街地の空き店舗の募集も、SNS、市のホームページなど何でも活用し、どんどん発信すべきであると考えがどうか。

**回答** 神山町は、アーティスト・イン・レジデンス事業の先進地であり、積極的な情報通信網の整備や情報発信により、海外からも芸術家を招聘している。神山町の取り組みを参考に、当市の国際芸術祭についても積極的な情報発信に努め、また市街地の空き店舗情報、募集等の効果的な発信の手法についても検討していききたい。



自然と景観を生かす国際芸術祭



**安心して  
子育てができるために**  
日本共産党 松島 吉子

**給付型奨学金制度の創設は**

**質問** 「まち・ひと・しごと総合戦略」が策定されているが、子育て支援の中で「給付型奨学金の創設」について具体的にどんな施策を考え、新年度予算化されているのか。

**回答** 公的機関の日本学生支援機構はじめ様々な団体や企業、学校、自治体等により多様な制度が創設され普及しているほか、県も昨年度から効果的に利用しやすい制度を創設している。一方、市の奨学金制度の利用者は少なくどんな制度が適切か検討中のため、新年度予算には計上していない。

**医療費無料化18歳までに**

**質問** 子どもの医療費について、市長の公約実現に向け、助成対象年齢拡大実施に対する見解はどうか。

**回答** 飯田市が新年度から対象年齢を高校生まで拡大するが、県内各市の水準に鑑み、新年度は見送ることとした。今後他市の動向を注視するとともに、国や県にも要請していく。

**子どもの貧困、大町の実態は**

**質問** 平成24年に子どもの貧困率は16.4%、6人に1人が貧困状態にある。市の実態はどうか。できる限りの支援をすべきと思うが見解を伺う。

**回答** 子育て世帯で、ひとり親家庭は2月現在311世帯。うち母子家

庭266世帯、父子家庭45世帯。児童扶養手当の認定は1月末現在238世帯で、うち全部支給106世帯、一部支給10

0世帯、全部停止が32世帯となっている。国の制度に基づき8月分から第2子、3子以降が増額される予定。就学援助についても国庫補助の対象範囲を弾力的に設定し、広範で、きめ細やかな運用に努めている。今後もひとり親家庭を含め、すべての子育て家庭を対象に、経済的困窮や子育ての悩みについては支援に努めたい。子ども食堂は市内のNPO等を含め検討していく。

このほか、国際芸術祭について、市民との意識の差、予算の使い方などに疑問を投げかける質問をした。



子どもは地域の宝



**質問** 北アルプス国際芸術祭の目的として、地域住民の参加と協働による「手作りの芸術祭」と示している。どのような「こと」、「もの」を想定しているのか。「オール大町」でのおもてなしはどのように進めていくのか。

**答弁** 開催に向けての準備、案内、「食」のおもてなし。地域の魅力を伝える。作品の資材調達や製作作業への協力等が考えられる。市民自らの意思で自主的、積極的に関わることが肝要。早急に具体的な内容を固め、市民に情報提供し関心を持っていただくことで「オール大町」へ進むものと考ええる。

**質問** 信濃大町アーティスト・イン・レジデンス事業の、アーティスト招へい期間中に旭町に滞在している中で、東小の児童たちがアートに触れたり、体験する機会、また、近隣の自治会、住民、アートの興味のある市内外の人との交流について研究できないか。

**答弁** 子どもたちが、国内外からの異文化資源、多様性を持ったアーティストとの交流は、創造力を育むよい機会である。滞在期間中、作品製作のワークショップ等開催し、児童生徒の交流機会を設けたい。市内外の交流も増やしたい。大町の魅力の再発見、芸術文化への理解が深まることを期待する。

**質問** 地域高規格道路松本系魚川連

絡道路、仮称安曇野北インターから大町市街地南のルート案が県から示された。懸案ルート案に対する市の見解は。

**答弁** 新たに安曇野北インターを建設し、下りまで18キロ整備する。高瀬橋交差点は立体交差化する。物流の安定供給、アクセス向上等命を守る道としても事業効果が高く、実現性の高い案である。実現に向けより一層取組む。

**質問** 大町市議会では、交通網対策特別委員会を中心に、中信4市の議会が連携し、早期着工の要望書を提出する動きがある。地域間合意に向けた動きをどのように進めるか。

**答弁** 地域間合意は早期実現の最重要課題。連携を密に情報共有、意見交換などで整備促進に向けて働きかける。



招へいしたアーティストの作品



**質問** 市内6会場で行われた「まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略説明会」において、国際芸術祭「食とアートの廻廊」について説明があり「自分たちの地域に、この事業をどう活かしていくべきか」という前向きな意見もでていたが、疑問を抱いている市民が理解したという感じにはなっていない。

**答弁** 議会全員協議会で示された資料等を用いて、一日でも早く、内容をしっかりと詰め、市民の方々と形の見える、具体的な議論・意見交換をするべきと思うが、いつできるようになるのか。

また、説明会のときに市民から要望のあった「展示エリアの見直し」「展示エリアの拡大は検討可能か」。

**答弁** 一方的な情報や事実と異なる情報を基にして、抱いた疑問が解消していない、あるいは反対の意見を持っている市民の方がいることは承知している。企画概要で示した基本的な考え方に基づき、実行委員会の各専門部会において企画立案を進め、できるだけ早急に、具体的な分野、現場ごとに形の見えるよう説明し意見交換を進めるよう努める。

**質問** 北アルプス国際芸術祭「信濃

大町 食とアートの廻廊」に関して、市長ばかりが「熱く」、また、担当課・係が一生涯命なだけで、他の行政側の職員が

らの「やっつやる」「成功させてやる」という「熱を感じない」。

市長だけが熱くても、働く職員たちが冷めているような事業に、市民は誰も共感しないし、一緒に頑張ろうなんて思うわけがない。まして、職員が疑問に思っているような事業に賛成なんてするわけがないと思う。

行政側も、この事業に対して覚悟を持って臨んでいただきたい。

この事業に対しての熱き想いをお聞かせいただきたい。

**答弁** 市長・教育長・副市長より熱き想いを語っていただいた。



国際芸術祭、全庁あげて推進を！



### 市民が内容をよく知らない芸術祭について

虹と緑の会 栗林 学

対してパスポート販売数はその1割程度であった。企画概要案に入場料4千円と見込んでいるが入場料金が不足の場合はどう

するか。

**質問** 入場料は実行委員会で検討する。4千円を目指すが及ばない時は企業の皆さんからの補てんという形で協力してもらおう。

**質問** 経済効果はあるのか。

**質問** 規模は小さいが成功させることが大切。徐々に大きくしていく。

**質問** 地元の受け皿が重要では。

**質問** 市民の歓迎の気持ちを醸成していくことが大切。ここを訪れ、芸術作品に触れるきっかけを作ることを目指す。

**質問** 計画は行政の執行側の責任であるので、予算提案で議員が判断し決定する。

**質問** 事業費2億円の根拠は何か。

**質問** 初めての事業なので、北川フラム氏からの提案と他の例を参考にし、大町市では事業費2億円とした。

**質問** 総事業費の内訳は。

**質問** デイレクター費1千400万円、作品製作費1億5千万円、広告宣伝費1千300万円、運営費と食で2千300万円を想定している。

**質問** 事業費は増えるのか。

**質問** 実行予算は28年度29年度の予算を出して判断する。現時点では2億円程度とする。

**質問** 大地の芸術祭では入込客数に

対してパスポート販売数はその1割程度であった。企画概要案に入場料4千円と見込んでいるが入場料金が不足の場合はどうするか。



地元の作家さんの作品

## 総務産業委員会審査報告

○ 市長が政治生命をかけると言っていることから認めるべき。

○ 2年前に芸術文化のまちづくりを政策に掲げ、この芸術祭を起爆剤としてまちを変えようとしている。予算の手当ても国、県などからある。

○ 北川フラム氏が全国の市町村の中で大町市を選んでくれたこのタイミングを逃してはならない。芸術に対する投資は必要である。などの意見がありました。慎重審査の結果、賛成少数で不採択となりました。



自然との調和が大事

「北アルプス国際芸術祭」の抜本的見直しを求める陳情に活発な意見

「大町の芸術祭を考える会」呼びかけ人代表から提出された陳情では7人の委員が活発な意見を述べました。

○ もっと生活に密着した事業に力を入れることが、人口減少の克服に結びつく。

○ 発表した経済効果や波及効果は信用性が低い、入場者数の根拠があやふやで計画性を疑問視する。



改修予定の鷹狩山遊休施設

平成28年度一般会計予算  
賛成多数で可決

鷹狩山遊休施設改修事業負担金の具  
体的な使い道について質疑がありまし  
た。行政側から、改修施設は2つあり  
国際芸術祭に参加するアーティストが  
滞在して作品を制作することを想定し

## 社会文教委員会審査報告

平成28年度大町市一般会計予算にお  
ける審査概要を報告します。

○ 消費生活センター運営事業につい  
て「広域連携により市の負担は増え  
ないか」との質疑があり、行政側か  
ら「大町市の消費生活センターが大  
北4町村分を含め実施する。4町村  
の負担で相談員を一人増員し、従来  
より手厚い相談が可能となる」との  
答弁がありました。

○ 児童ショートステイの事業内容に  
ついて質疑があり、行政側から「松  
本市にある児童養護施設等に、冠婚  
葬祭などの家庭の急な事情により、  
子どもを預かる業務であり、負担の  
減免制度がある」との答弁がありま  
した。

○ 大町市霊園の駐車場整備の内容に  
ついて質疑があり、行政側から「霊

園上段に向かう林道の山側を拡幅し、  
車のすれ違いを可能とする。水汲み  
場付近に10台程度の駐車スペースを  
整備する」との答弁がありました。

○ ICT(電子黒板・タブレット端  
末等)活用推進事業について質疑が  
あり、行政側から「ICTを使うこ  
とが目的ではなく、子どもが自分の  
考えや友達の考えを聞きながら、一  
緒に考え、学ぶことを実践する『ア  
クティブラーニング』と言われる学  
習が目的であり、ICTはそのツ  
ールの一つとして活用していく」との  
答弁がありました。



霊園駐車場整備予定地付近

## 市議会を 生中継しています

市議会本会議の様様を、大町市ケーブルテレビと大町市  
ホームページで生中継しています。  
またケーブルテレビでは、一般質問の様様を再放送して  
います。ホームページでは録画をご覧いただけます。

○ アルプスマラソンコースの迂回  
ルートについて質疑があり、行政側  
から「犬の窪交差点を通るルートを  
鹿島大橋の下の堤防を利用するル  
ートに変更する計画である」との答弁  
がありました。



タブレットを使ったグループ学習

3月定例会 審議結果と各議員の賛否一覧

◇賛否が分かれた議案・陳情

○…賛成 ●…反対

Table with columns for case number, title, decision, and 18 council members' votes (松島吉子, 平林英市, etc.).

◇全会一致で可決・同意された議案・陳情

Table listing cases and motions that were unanimously approved or agreed upon by the council.

請願・陳情審査結果

採択

○耐震診断・耐震改修に関する陳情 (社)長野県建築士事務所協会

○国土交通省告示第15号の履行に関する陳情 (社)長野県建築士事務所協会

○学校薬剤師報酬の増額について (大北薬剤師会 学校薬剤師部会)

○通学路の安全確保に関する陳情 (大町南小学校PTA)

○道路・水路の整備等について (三日町自治会, 西原自治会, 海の口自治会, 北原町自治会, 高根町自治会, 松崎自治会, 館之内自治会, 山下自治会, 関田自治会, 曾根原自治会, 宮本自治会, 借馬自治会, 大原町自治会)

○最低制限価格の設定に関する陳情 (社)長野県建築士事務所協会

○高齢者の筋力向上トレーニングについて (塚田文善ほか5名)

○「北アルプス国際芸術祭×信濃大町 食とアートの廻廊」の抜本的見直しを求める陳情 (大町の芸術祭を考える会)

一部不採択

○道路・水路の整備等について (稲尾自治会)

# 議会だより編集委員会視察研修報告

## 議会だよりの刷新をめざして

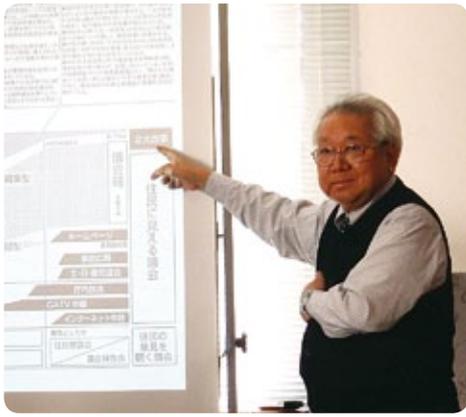
2月4日、5日の2日間、「おおまち市議会だより」をもっと市民のみなさんに読んでもらえる・見てもらえる議会広報にするためにどうすればよいか、議会だより編集委員会で視察研修を行いました。

### 議会広報とは？

1日目は、議会広報サポーター 芳野政明氏より「議会広報の基本と編集」についてお話を伺いました。

そもそも議会広報とは？という基本的な部分では「傍聴するればわかる議会での出来事を、その場にはいない人にも正確・簡潔に分りやすく編集して伝えるものである」との定義でした。

その後、他の議会の広報を例に挙げ



芳野先生による説明

市民に親しんで読んでもらえるための工夫について具体的なアドバイスをいただきました。例えば、言葉だけでなく紙面を視覚的に捉えることや、タイトル・見出しの付け方、インパクトのある中見出しの必要性、写真の挿入とわかりやすい説明、余白の重要性などです。大町市の議会だよりをもっと読みやすくするいくつかの工夫やヒントをいただきました。

お話を聞いて各委員からやる気のある発言がいくつか飛出し、全員がページを開きたくなる議会広報をめざすことと一致しました。

### 群馬県玉村町議会においで

2日目は、群馬県玉村町議会広報特別委員会と意見交換をしました。玉村町議会だよりは、全国町村議会議長会主催の平成26年度町村議会広報表彰・第29回広報コンクール編集デザイン部門奨励賞を受賞している議会広報で、表紙のレイアウトなどたくさんの方が参考になりました。

前日の研修にあつた「タイトル」、「大見出し」、「小見出し」など、インパクトを与える見出しの重要性や文字の大きさ、余白の使い方、ページ全体として見やすいレイアウトなどが実践されていました。



玉村町議会との意見交換

議会の活動や、何を決めたのが非常にわかりやすい、市民目線にたった議会広報に感心しました。

編集作業の話聞いてみると作業工程には大町市とそれほど違いがありません。しかし、編集にあたって紙面のレイアウトや人を惹きつけるための工夫で差が出てしまうのです。また、編集委員の皆さんの強い熱意と意欲が必要であると感じました。決して今までの大町市議会だよりが悪いわけではありませぬ。しかし、読みたくなる議会広報にするためには、まだまだ努力と工夫が必要であると感じました。これからは、やれることから手をつけて視察研修の成果を今後活かしていきたいと思えます。

## 市議会の傍聴におでかけください

大町市議会傍聴規則に基づき、本会議・全員協議会・各常任委員会の傍聴ができます。詳しい日程等については大町市ホームページ、または議会事務局までお問い合わせください。

大町市議会事務局 電話 0261-22-1139

次は  
**6月定例会**です。

大町市議会議員研修・市民公開講演会

「地域にお金がかかる仕組みづくり」  
～住民が幸せになり まちが豊かになるために～

JTIC SWISS代表 山田桂一郎氏

大町市議会では、3月10日、内閣府官房「地域活性化伝道師」として著名な観光カリスマの山田桂一郎氏を迎えて、150名を超える方の参加のもと「市民公開講演会」を開きました。

人口減少社会を迎え、全国で地方創生の取り組みが展開される中、ここで暮らす私たちが幸せになり、地域が豊かになるためのまちづくりや仕組みについて、市民のみなさんと共に考える機会になりました。

まちの将来ビジョンを明確に

各自治体は「地方創生」で政策の柱を立てているが、まちづくりの手段である施策遂行が目的になり、まちの将来像が見えない。

地域経営

市民が主体。行政は上手に参加することが大事。行政は現場の視点と経営視点を持つ総合プロデューサーでなければいけない。行政は外貨獲得と地域にお金を回す方法を考えるべき。地域でお金が回らないと人口は増えない。

「地産地消」ではなく「地消地産」

地元で作ったものを地元で消費するとの発想を変えて、そこに行かないと食べられない・買えない・体験できない、その地域で消費させることが重要。すべて地元産の付加価値を高めたA級グルメを作る。「今だけ、ここだけ、あなただけ」の言葉



のもと、地消地産に徹すること。

自立・自尊のまちづくりをめざせ

私たちは地域の消滅という危機感を持つべき。それがなければ、地域や人間同士の利害関係や好き嫌いでまとまる話もまとまらない。離れ島で頑張っているところがある。人々の危機感がまるで違う。食べることに困らない人たちにどうやって危機感を持たせるか。外から来る人にかにお金を落とさせせるか。それは地域の特徴・生活文化に裏つけされた価値を磨きあげることである。地域内で稼ぐ力を作ってほしい。観光が「感幸」となるよう、地域の人が自分が自分の住むところに自信と誇りを持つことで、幸せを感じることができれば、人は来る。幸せで豊かなまちは、地域で稼ぐ力によって、自立自尊のもとで実現できる。

編集後記

「愛され親しまれる 議会だよりを目指して」

編集委員会では、議会だよりをもっと読んでもらえよう、紙面づくりの勉強に行ってきました。(報告は15ページに今回の「議会だより」に少しでもその成果を出そうと、8名の編集委員がみんなで知恵を絞りました。

新年度予算や委員会審査報告、国際芸術祭に集中した討論など、文章を簡潔に、写真を多く取り入れ、見出しや小見出しにも注意しました。わかりやすく、読みやすい紙面作りを努めました。いかがでしょうか。

広報づくりの基本姿勢は、大町市議会基本条例に定められた「透明性・公平性・信頼性」に基づいています。「議会だより」は、編集委員自らが原稿や写真を収集し、それぞれの記事を分担しあつて執筆し、レイアウト・校正等、すべて自主編纂している広報です。議事や諸活動の内容を伝え、市民のみなさんと共有するまでが議会や議員の責務と考えています。

委員全員が編集のプロではないので、技術的な課題は多くありますが、これからも委員一同、力を合わせ、愛され親しまれる広報を目指していきます。

市民の皆さんから様々なご意見をお聞かせいただければ幸いです。

(勝野)